

学術俯瞰講義  
〈学問と人間〉第4回

宗教と学問(1)  
——切っても切れない関係——

文学部宗教学宗教史学  
島 園 進

# I. 「科学」と「学問」

## ◇『広辞苑』

- 「科学」——「science, Wissenschaft ①体系的であり、経験的に実証可能な知識。物理学・化学・生物学などの自然科学が科学の典型であるとされるが、経済学・法学・などの社会科学、心理学・言語学などの人間科学もある。②狭義では自然科学と同義」
- 「学問・学文」——「①(「学門」とも書いた)勉学すること、武芸などに対して、学芸を修めること。また、そうして得られた知識。②(sceience(s))一定の理論に基づいて体系化された知識と方法。哲学・史学・文学・社会科学・自然科学などの総称。学。」

◇『岩波哲学・思想事典』(1998年)

- ・「科学」——「science, Wissenschaft 主として近代西欧に起原をもつ自然に関する学知を指す。広義には学問と同義である。」

◇『広辞苑』

- ・「学術」——「①学問と芸術。②学問にその応用を含めていう語。」
- ・科学～学術・学芸、科学論文～学術・学芸作品
- ・学術俯瞰はそもそも学芸的。

## ◇人間の自己理解の道としての学問

### ・心理学の多様性

◎心理療法(精神療法)と臨床心理学・精神医学

◎精神分析(フロイト)、森田療法(森田正馬)

☆人間はいかに心の病から回復するのか？

☆健康な人間の心とはどのようなものか？

☆成熟とは何か＝あるべき人間の成長は何か？

◎哲学・宗教・芸術等と関わらざるをえない——

「切れない」関係。科学はこの関係を切ろうとした。  
しかし、切れないものだった

## Ⅱ. 「人間の終わり」?

◇ヒト・クローンの作成・利用は認められるか?

日本の審議(『いのちの始まりの生命倫理』2006年)

1996年 クローン羊ドリー誕生(公表は97年)

1997年 総理府科学技術会議に生命倫理委委員会

1998年 ヒトES細胞の培養に成功(ウィスコンシン大学)

2001年 生命倫理専門調査会(内閣府総合科学技術会議)

2002年 アメリカ大統領諮問生命倫理委員会、クローン胚作成・利用のための国家支出4年間凍結(モラトリアム)提案。

2004年 韓国で人クローン胚からのES細胞の樹立成功の報

2005年 国連総会、人間へのクローン技術の応用禁止「宣言」を採択。

2005年11月～ 韓国の「成功」は虚偽で、倫理的にも問題であることが判明

# ◎誰が討議に加わるのか？

## 3. 生命倫理専門調査会メンバー

氏名	所属	備考 (空欄はH13.3-)
井村裕夫	総合科学技術会議議員(当時)	H13.3-H16.1 会長
薬師寺泰蔵	総合科学技術会議議員	H15.1- H16.1- 会長
阿部博之	総合科学技術会議議員	H15.1-
石井紫郎	総合科学技術会議議員(当時)	H13.3-H15.1
大山昌伸	総合科学技術会議議員	H15.1-
岸本忠三	総合科学技術会議議員	H16.1-
黒川清	総合科学技術会議議員	H15.8-
黒田玲子	総合科学技術会議議員	
桑原洋	総合科学技術会議議員(当時)	H13.3-H15.1
志村尚子	総合科学技術会議議員(当時)	H13.3-H14.1
白川英樹	総合科学技術会議議員(当時)	H13.3-H15.1
前田勝之助	総合科学技術会議議員(当時)	H13.3-H14.1
相澤慎一	理化学研究所発生再生科学総合研究センターグループディレクター	
石井美智子	明治大学法学部教授	
位田隆一	京都大学大学院法学研究科教授	
香川芳子	女子栄養大学学長	
垣添忠生	国立がんセンター総長	
勝木元也	大学共同利用機関法人自然科学研究機構理事・基礎生物学研究所所長	
島蘭進	東京大学大学院人文社会系研究科教授	
曾野綾子	作家	
高久史麿	自治医科大学学長	
田中成明	京都大学理事・副学長法学研究科教授	
西川伸一	理化学研究所発生再生科学総合研究センターグループディレクター	
藤本征一郎	医療法人社団カレスアライアンス天使病院院長	
町野朔	上智大学法学部教授	



# Remaking Eden

CLONING AND BEYOND  
IN A BRAVE NEW WORLD

# 複製されるヒト

リー・M・シルヴァー

訳▼東江一紀 真喜志順子 渡会圭子

翔泳社

# それでもヒトは 人体を改変する

— 遺伝子工学の最前線から —

REDESIGNING HUMANS  
*Our Inevitable Genetic Future*

グレゴリー・ストック  
垂水雄二[訳]

早川書房

レオン・カス偏『治療を超えて』2005年 (原著、2003年)

レオン・カス『生命操作は人を幸せにするのか』2005年  
(原著、2002年)

ユルゲン・ハーバーマス『人間の将来とバイオエシックス』2004年(原著、2001年)

フランシス・フクヤマ『人間の終わり』2003年(原著、  
2002年) Francis Fukuyama, *Our Posthuman Future:  
Consequences of the Biotechnology Revolution*

「我々は「人間後」の未来に足を踏み入れようとしているのかもしれない。この未来では、テクノロジーによって、人間性を徐々に変える力が与えられる。人間の自由という旗印のもと、多くの人たちはこの力を受け入れる。」p.252



- 「親がどんな子を生むかを選ぶ自由、科学者が研究を進める自由、企業がテクノロジーを用いて富を築く自由を最大限に活用したい、とみなが望んでいる。(中略)我々は、この新しい自由を受け入れる運命なのだろうか。(中略)無制限な生殖の権利であれ、科学研究の自由であれ、見当違いの自由を振りかざした、こんな未来世界を受け入れる必要はない。テクノロジーの進歩が人間の目的に役立たなくなってもまだ、進歩は止められない、自分たちはその奴隷だ、などとあきらめる理由がどこにあるのか。真の自由とは、社会で最も大切にされている価値観を政治の力で守る自由を意味する。」(p.253)

# すばらしい新世界

ハッタスリー 松村達雄訳

LEAVE NEW WORLD

Album Lyrics



# 「人間の廃止」？

- オルダス・ハックスリー『すばらしい新世界』1974年  
(Aldous Huxley, *Brave New World*, 1932)  
C.S.Lewis, *The Abolition of Man*, 1944

「『すばらしい世界』に出てくる人々は健康で幸せかもしれないが、もはや「人間」でない。闘わないし、野心を持たない、愛さない、痛みを感じない、困難な道徳的決断をしない、家族を持たない、伝統的に人間がするとされてきたことを行わない。人間の尊厳となる特徴を持たない。実際、もはや人類という種にあたるようなものは存在しない。支配者によって養育され、アルファ、ベータ、ガンマ、デルタ、エプシロン、という階級に分化されるが、この諸階級は人間と動物の違いと同じくらい、それぞれが全く別ものなのだ。(レオン・カス『人間操作は人を幸せにするのか』2005年、原、2002))

C.S.  
Lewis



The Abolition  
of Man



- (a) 人類という種の同一性が失われる可能性。
- (b) 人類が人類であるための基本的属性の喪失
- (c) 人類は同一ではないという意識の広がり
- (d) 人類は基本的な価値観を共有できないという意識の広がり
- (e) 歪んだ価値観、壊れかけた倫理的思考の支配

- ☆なぜ、クローン人間は人間の尊厳を脅かすのか。
- ☆なぜ、ヒト胚の利用は人間の尊厳を脅かすのか。
- ☆なぜ、臓器売買は人間の尊厳を脅かすのか。
- ☆なぜ、選別や優生思想は人間の尊厳を脅かすのか。
- ☆なぜ、遺伝子増強人間は人間の尊厳を脅かすのか。

「私たちが早急に必要としているのは、もっと豊かで自然な生物学と人間学である。魂と肉体の特殊な統合体である人間の意味を、きちんと説き明かしてくれる学問が必要なのだ。そもそも肉体と魂は、取るにたりないものが、神聖なものへの希求と結ばれ、具体的な形となったものなのだから。／こうした理論を探していくとき、私たちは近代以前の源泉、哲学と聖書から助けを得られるだろう。たとえば、アリストテレスからは、魂は機械のなかの幽霊ではなく、ありのままの生物体にそなわっている優れた力であるという説を学べる。創世記をひもとけば、さまざまなことが学べる。地上でもっとも神に似た生き物が、なぜ土と塵とかぐわしい息で造られたのか。なぜ人が一人でいてはいけないのか。人の孤独を癒す手段が、なぜ異性であって、知的な話し相手ではないか。」(カス『人間操作は人を幸せにするのか』2005年(原, 2002))

- 「たとえば、アジアでは、西洋で理解されているような宗教——つまり、超越的な神に由来する信仰体系を持つ宗教——がない国が多い。中国で支配的な倫理体系は儒教だが、これには神という概念がない。道教や神道のような民俗宗教はアニミズム (animism) であり、動物 (animal) と生きていない (inanimate) 物質の双方に霊的な性質があると見なしている。仏教では人間と人間以外の自然を区別せずともに断絶のない宇宙の一部だと見なしている。キリスト教と比べた場合、仏教、道教、神道のようなアジアの諸伝統は、人間とそれ以外の被造物との間に明確な倫理的区別を立てない傾向がある。(中略)しかしこれは裏を返せば、人間の生命の神聖性 (sanctity of human life) に対して敬意を払う度合いが、何ほどか低くなることをも意味する。アジアの多くの地域で、実際、中絶や幼児殺し(とくに女兒)といった慣習が広まっている。」(p.223)

### Ⅲ. 「日本人は無宗教」?

◇日本人はどのような根拠から生死をめぐる倫理問題に取り組むのか。

◎21世紀COE「死生学の構築」の課題

◎脳死は人の死か?

◎ヒト胚の操作に関して。キリスト教との違い。

◇阿満利麿『日本人はなぜ無宗教なのか』1996年

◇新しい追悼施設は無宗教であるべき?

◎「追悼懇」(追悼・平和祈念のための記念碑等施設の在り方を考える懇談会・報告書(2002年12月))



「私の見解ですが、廃棄される運命にある凍結余剰胚においても、それは命の出発点であることに変わりない。私自身も個人的にはそう思います。しかし日本の社会の中には、もっと、とんでもないことがある。それと比較してみてください。年間40万ぐらい殺されていく胎児、一時期は百万を超えていました。その胎児たちの運命と、その母胎から取り出されていった胎児たちが、どう扱われているかということです。(中略)

中絶した当の責任者が引き取って回向をするということとは通常ありえないわけです。製薬会社、化粧品会社がそれをひきとって薬や化粧品を作ったりする材料にするというのを、実は皆が知っていながら誰も本気で問題にしないし、それを規制する法律もない。」

(村上陽一郎「生命の始まり」その行方(2))

- 「日本の社会は伝統的に、胎児に対して比較的ルーズな扱いをしてきました。1549年にザビエルたちが日本にやってきたとき、彼らは日本社会の倫理の高さ、道徳的高貴さに、非常に衝撃を受けている。そのことはローマへの報告書にも書き送っています。しかし、高いモラルを維持している日本社会のなかで、彼らがどうしても我慢できなかったのは、間引きとか墮胎がきわめて簡単に行われているという事実でした。

アルメイダという司祭が北九州にそうしたなかで、日本で最初の西欧的な病院を建てたといわれますが、実はそれは病院ではなく、一種の「子捨て」の箱でした。生まれた子どもを殺すぐらいなら、教会の門前に置いた箱の中に捨てていって欲しい、自分たちが育てるから、というのがその趣旨です。」

(村上陽一郎「生命の始まり」その行方(2))

- 「子供の生まれかわりの信仰の背景には、以前にも述べたように、かつて日本人の間には一人一人の人間の個別性よりも、ある「家」やある土地に生まれ、一定期間の人生を生きて死んでゆく者は、一つの大きないのちのプールのようなものの中から、ある時間帯だけこの世に生まれ出て来て、死ぬと、またそのいのちのプールに帰るとでも比喻できるような、個人のこの世での生命を強調しないいのちの観念があった。

生まれてすぐに死んだ子供の名前をその後数年を経ずに生まれた子供にそのまま付けることがかつて頻繁に行われた。あるいは幼くて死んだ子供の葬式は行わず戒名も与えなかった地域が全国で見出され、その理由を、「すぐに生まれかわるように」といっていたことなどを考え併せると、いのちを個別のものとする傾向が小さかったことをうかがわせる。」

「私が訪れた家の、世帯主の父親に当たる人はその頃60歳代半ばだったが、インタビューのあと支度をして山へ出かけるという。それは桜の苗木を山に植えるためであった。その人は、自分の家の前の「マエヤマ」(家の正面に立った時に見える山の風景あるいは山そのもの)に見える桜の木は、自分の祖父が植えたものであり、今後生まれてくる孫や曾孫の代の人々が自分の植えた満開の山桜を楽しめるように、今のうちに桜の苗木を植えておくのだと言った。」

波平恵美子『いのちの文化人類学』(p.21)



## IV. 自己探求の道と学問

◇あなたの死生観はどのようなものですか？  
どのような心構えで死と向き合うつもりですか？  
ともにどのような死生のあり方を求めていきたい  
ですか？

◇日本人はどのように死と向き合ってきたのだろうか？  
日本人は死者をどのように遇して来たのだろうか？  
世界の人々はどうか？

小林一茶(1763-1827)『おらが春』(1825)

楽しみ極りて愁ひ起るは、うき世のならひなれど……

露の世は露の世ながらさりながら

さと女卅五日 墓

秋風やむしりたがりし赤い花

我やうにどっさり寝たよ菊の花

露の玉つまんで見たるわらは哉

他力信心信心と、一向に他力にちからを入れて、頼み込み候輩は、つひに他力繩に縛れて、自力地獄の炎の中へとぼたんとおち入候。

ともかくもあなた任せのとしの春

老が身の直ぶみをさるゝけさの春

春雨や喰れ残りの鴨が鳴く

鳩の恋鳥の恋や春の雨

しょんぼりと雀にさへもまゝ子哉

是がまあつひの栖か雪五尺

死支度致せ致せと桜哉

いざさらば死ゲイコせん花の陰

日が長い長いとむだな此世哉

永き日に身もだへするぞもつたいな

永き日や嬉涙にほろほろと

◎この世の生を尊びつつ、その限界に目を向け、束の間の現実を超えた「宗教的」な価値を忘れない態度を日本人は養ってきた。

◎なぜ、宗教なのか？

→人々の生を根底で支えてきたから。

◎では、韓国人は？中国人は？インド人は？  
ムスリムは？

◎他者を知り、他者と「対話」することを通してこそ、自己が見えてくる。



◇(人文社会系の)学問は文化の自覚や比較を通して、現代の困難な諸問題に立ち向かう。

◇学問は人類の叡智を受け伝え、新たな形へと鋳直す。

◇また、学問は学芸の一部として個々人の人生に、また死生に深く関わり合う。

- ◇身につけられる文化の諸相。その中の学問。
- ◇現代人にとって**学芸**(上層)は不可欠。そして学芸は、宗教と深く関わっている。
- ◇**宗教**(下層)は多数者の生活の基礎として要の位置にある。

◎人文学・社会科学

◎思想・教養

◎**芸術**(文学・音楽・美術・映画・マンガ)

◎芸事(武道・芸道・技芸)

◎**宗教**・スピリチュアリティ

◎慣習・儀礼・生活スタイル